

横浜ブルーカーボン これまでの取組み



横浜ブルーカーボン・オフセット制度

横浜ブルーカーボン・オフセット制度とは？

横浜市は、平成26年度から令和4年度まで、海洋資源を活用した温暖化対策プロジェクト「横浜ブルーカーボン」において、独自の「カーボン・オフセット制度」を運用していました。

カーボン・オフセットとは、自らのCO₂等の温室効果ガス排出量のうち、どうしても削減できない量の全部または一部を、他の場所での排出削減・吸収活動に投資することによって、相殺することをいいます。

本制度は、「ブルーカーボン」や「ブルーリソース」によるCO₂吸収量の増大及び排出量の削減効果を、取引可能なクレジットとして独自の的方法論によって認証し、そのクレジットの売買を行うことで、海の世界活動のさらなる推進を目指す、横浜の海を舞台にしたカーボン・オフセット制度です。



「ブルーカーボン」と「ブルーリソース」

ブルーカーボン 海洋に生息する海藻などの生き物によって吸収・隔離されるCO₂などの炭素のことです。2009年、国連環境計画 (UNEP) 報告書にて命名されました。

ブルーリソース 海洋エネルギーの活用や臨海部の低炭素化など、海洋及び臨海部におけるエネルギー・資源の有効利用のことで、横浜市独自の考え方です。

横浜ブルーカーボン・オフセット制度 参加事業者

令和4年度は、新たなクレジットの創出は行わず、クレジットの活用のみ実施しました。クレジットの活用には新たに7者が参加し、オフセットの実施は計22者、活用量計312.8t-CO₂となりました。

クレジット活王者

※令和4年度参加事業者

クレジット創出者

プロジェクト

ブルーカーボン

- ① 養殖コンブ、わかめによるCO₂の吸収

ブルーリソース

- ② LNG燃料、ハイブリッドタグボートへの更新によるCO₂削減
- ③ わかめの地産地消によるCO₂削減
- ④ 海水ヒートポンプへの更新によるCO₂削減
- ⑤ 環境配慮型の作業船への更新によるCO₂削減